

宿坊

これらの町の宿坊は茅葺屋根の大きな建物で、一般的にお寺と宿の両方を性質を1つ屋根の下に組み合わせた建物となっていました。奥社に向かう参道沿いの宿坊は現在に残っていませんが、中社と宝光社の周囲に作られた宿坊は多くが現存しており、現在も使用されています。それらのいくつかは、江戸時代（1603年～1867年）に作られたものです。そのうちの一つである宿坊「極意」は400年前から営業しており、その伝統的な茅葺の屋根は、日本の登録有形文化財に指定されています。

中社と宝光社の門前町は、門前町の中で最大級であり、日本のどの地域よりも多くの宿坊が一箇所に集まっています。これらの歴史のある2つの地域は、文化庁によって重要な伝統的建造物群保存地区として指定されています。

宿坊は奥社、中社、宝光社の周辺には作られたものの、火之御子社の周辺ではこのような宿坊の町が発展しなかったことは非常に興味深いことです。他の神社とは異なり、火之御子社は一貫して神道の神社を貫いており、仏教の巡礼先にはならなかったからです。